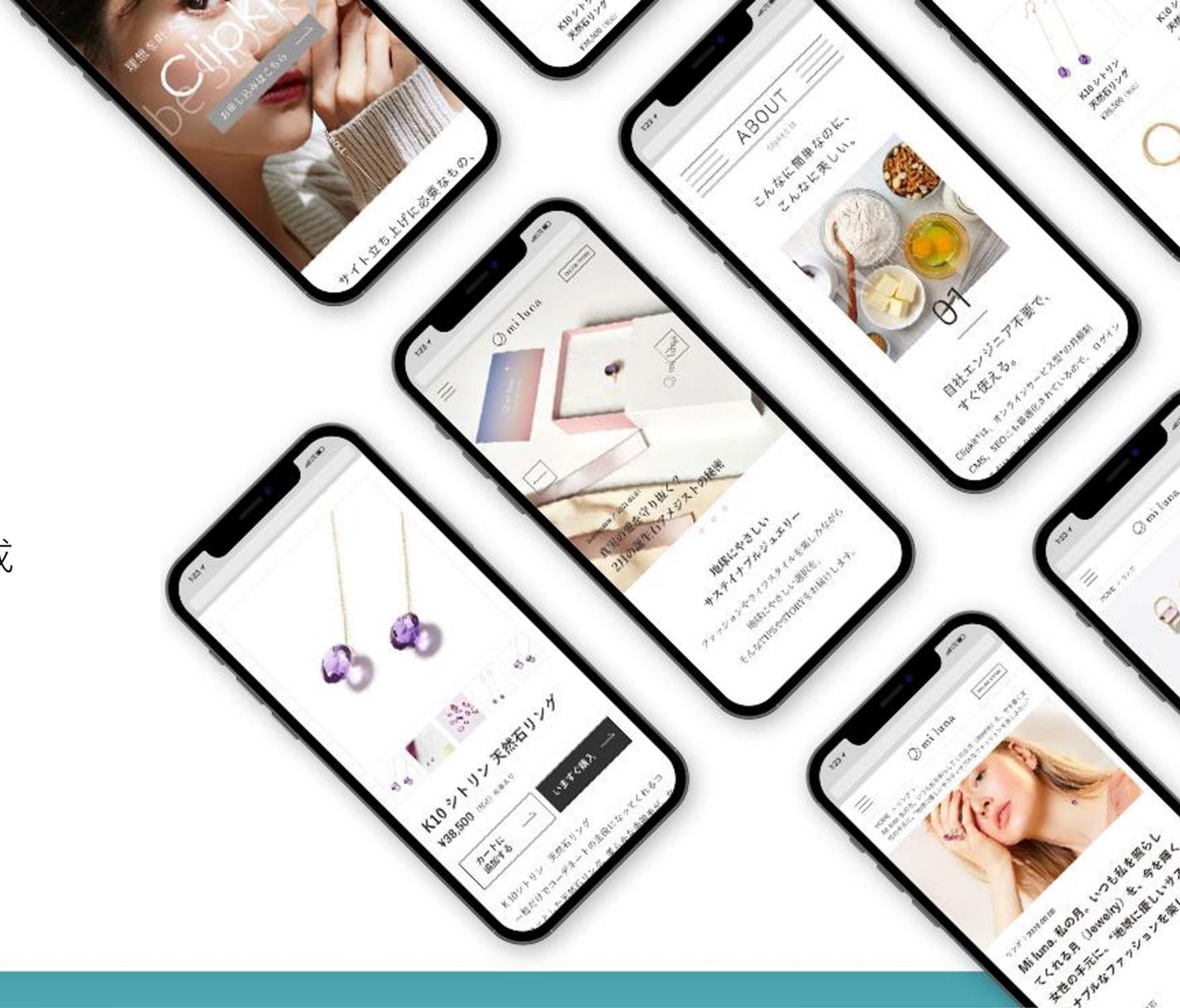


2022年4月1日作成



Google アナリティクス 4 (GA4)  
導入と併せて最初にしておくべき初期設定

Smartmedia

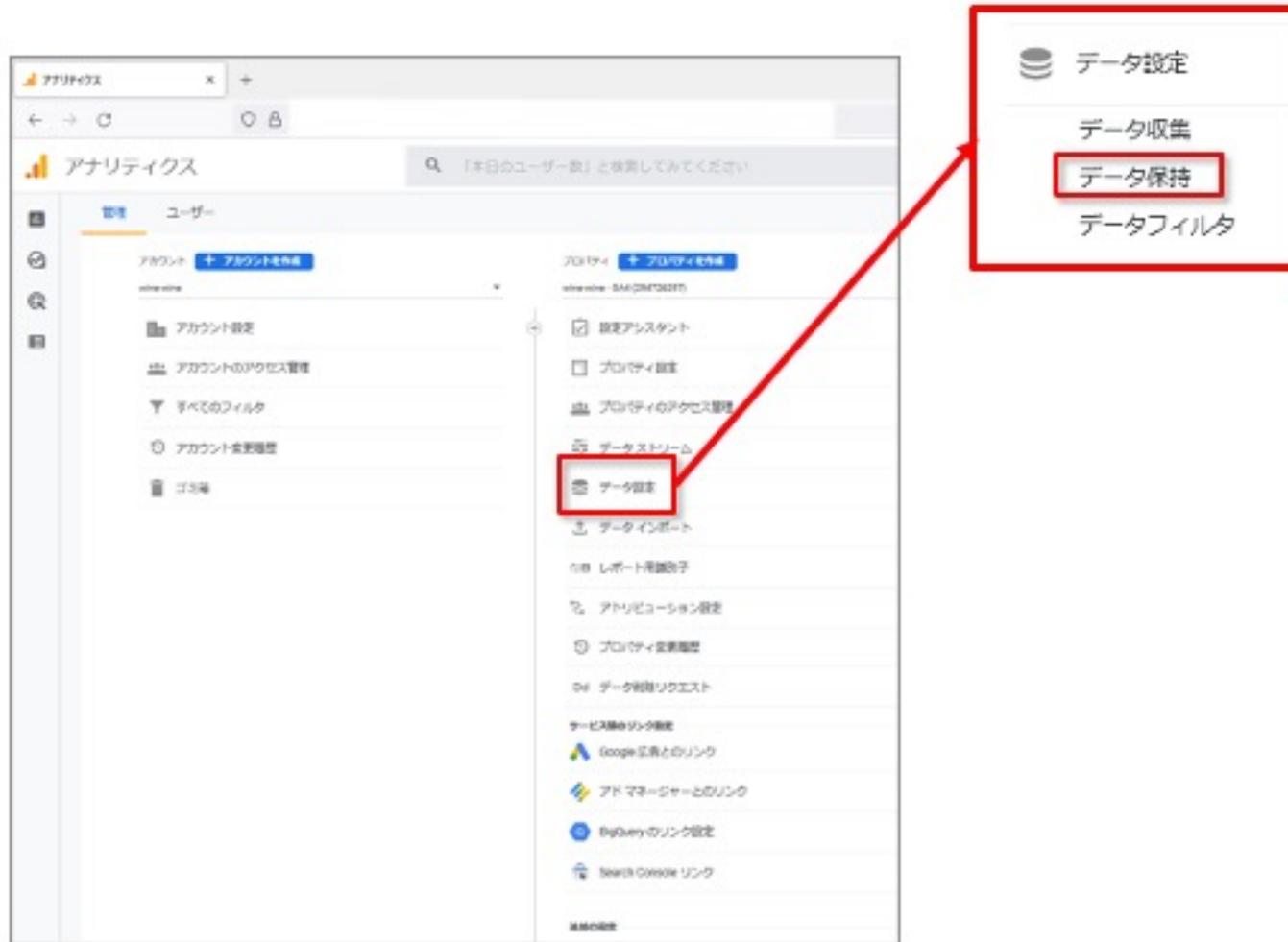
# 最初にしておくべき設定(1)

## データ保持期間の変更

GA4では、データの保持期間は最大14か月です。  
初期設定では2か月ですので、14か月に変更しましょう。

# 最初にしておくべき設定(1)データ保持期間の変更

管理 > プロパティ列 > データ設定 > データ保持 で変更します。



# 最初にしておくべき設定(1)データ保持期間の変更

「14か月」に変更。

The screenshot shows the 'Analytics' (アナリティクス) dashboard. The left sidebar contains navigation options: '管理' (Management) and 'ユーザー' (User). Under 'ユーザー', there is a 'プロパティ' (Property) section with a '+ プロパティを作成' (Create Property) button. Below that is a list of settings: '設定アシスタント' (Settings Assistant), 'プロパティ設定' (Property Settings), 'プロパティのアクセス管理' (Property Access Management), 'データストリーム' (Data Stream), 'データ設定' (Data Settings), 'データ収集' (Data Collection), 'データ保持' (Data Retention), 'データフィルタ' (Data Filter), and 'データインポート' (Data Import). The 'データ保持' (Data Retention) option is highlighted in red. The main content area is titled 'ユーザーデータとイベントデータの保持' (User Data and Event Data Retention). It contains a text block explaining that retention periods for user and event data can be changed, and that changes take 24 hours to take effect. Below this, there is a dropdown menu for 'イベントデータの保持' (Event Data Retention) which is currently set to '2か月' (2 months). The dropdown is open, showing '2か月' and '14か月' (14 months) as options. The '14か月' option is highlighted. At the bottom of the main content area, there are '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

# 最初にしておくべき設定(2)

## Googleサーチコンソールとの連携

Googleサーチコンソールとは、  
Googleで検索されたキーワードデータを取得できるツールです。

Googleから提供されているサービスで、  
GA4と連携させることができ、より便利に使用できます。

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

<https://search.google.com/search-console/welcome?hl=JA>にアクセスして、GA4を設定したのと同じGoogleアカウントでログインしてください。  
Google Search Console > URL プレフィックス



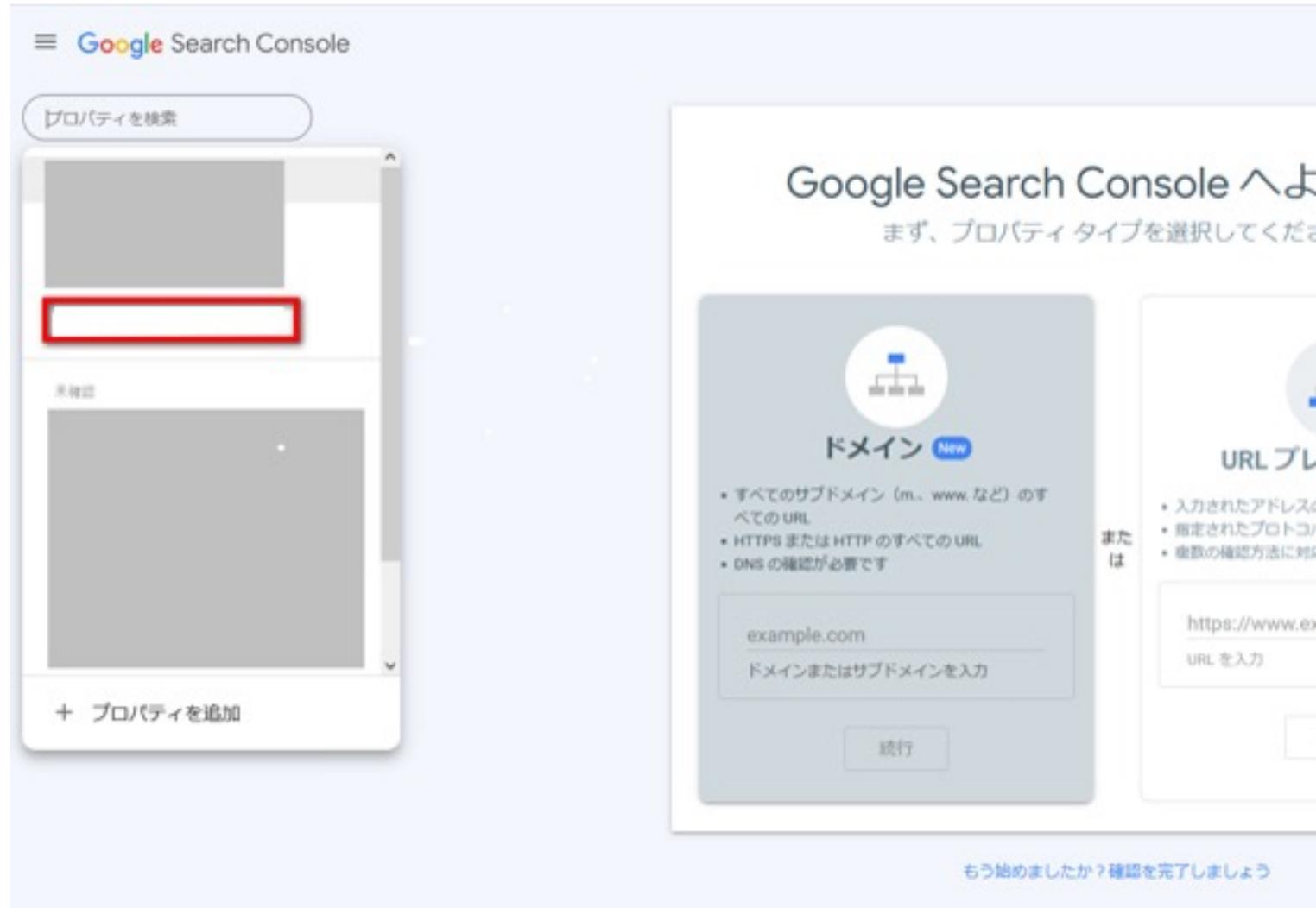
# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

同じGoogleアカウントでGTMが入っていれば、  
所有権（サイトを管理している本人が操作をしていることの確認）は自動確認されます。



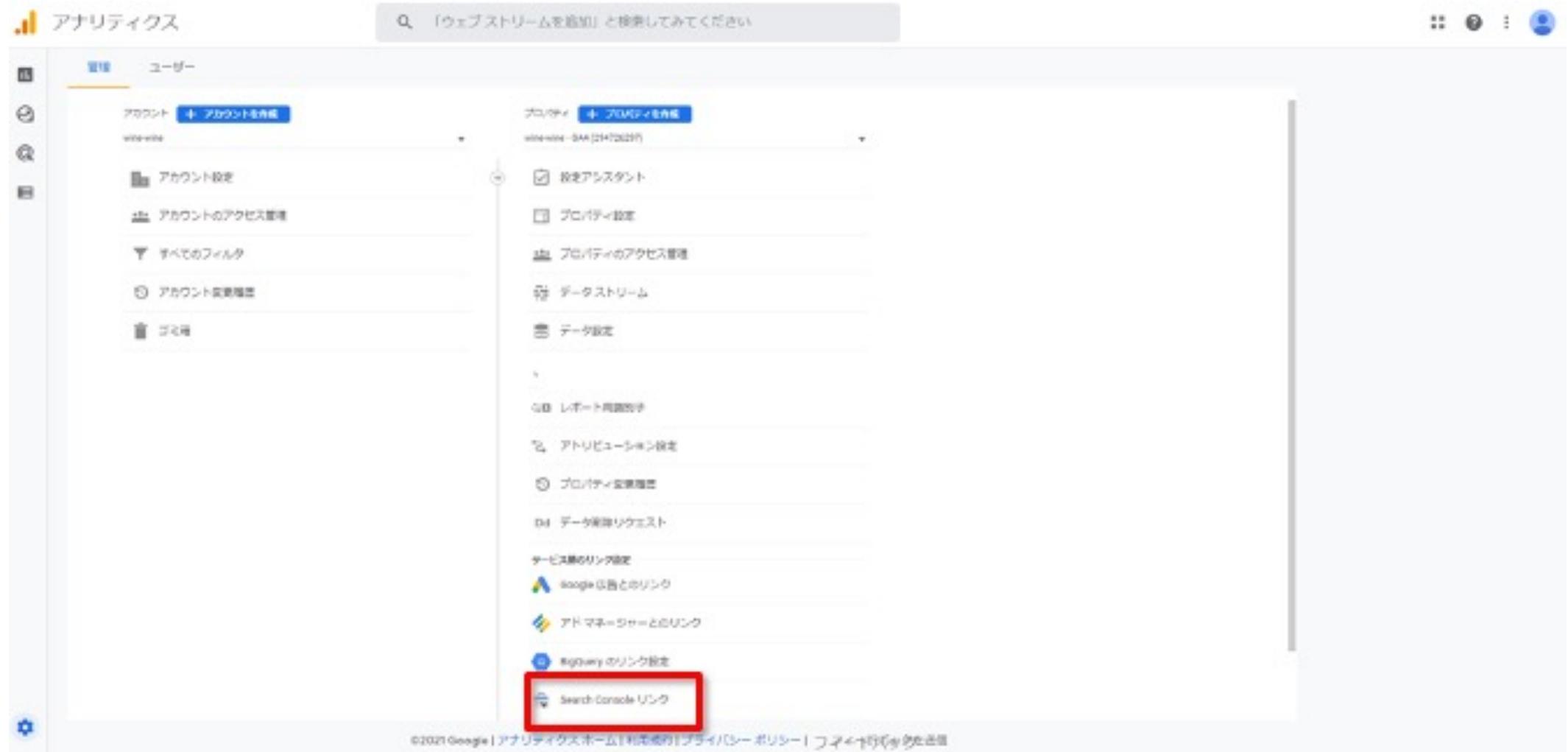
# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

赤枠の中にドメインが表示されますので、これで承認されたことが確認できます。



# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次にGA4の画面に戻って設定を続けます。管理 > プロパティ > Search Console リンク



# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次の画面で青いリンクボタンを選択し、下の画面に進むのでアカウントを選択をクリックします。

× Search Console とのリンクを作成する

### リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。 [詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

- 1** Search Console プロパティを選択

管理する Search Console プロパティにリンク

次へ

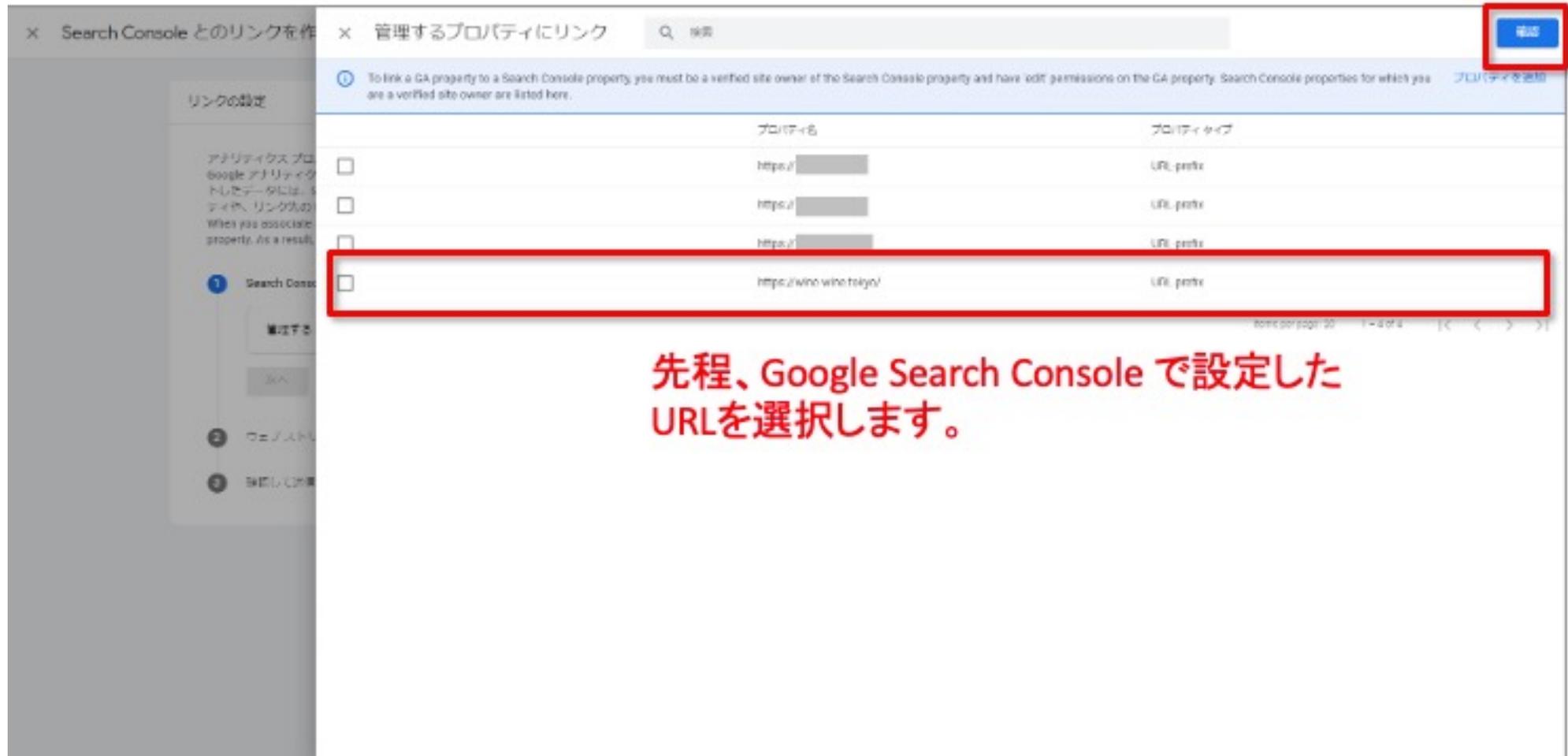
**2** ウェブストリームを選択する

**3** 確認して送信

アカウントを選択

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

先ほど、Googleサーチコンソールで設定したドメインにチェックを入れて確認をクリックします。  
次の画面で次へを選択し、進んでください。



管理するプロパティにリンク

To link a GA property to a Search Console property, you must be a verified site owner of the Search Console property and have 'edit' permissions on the GA property. Search Console properties for which you are a verified site owner are listed here.

	プロパティ名	プロパティタイプ
<input type="checkbox"/>	https://[redacted]	URL prefix
<input type="checkbox"/>	https://[redacted]	URL prefix
<input type="checkbox"/>	https://[redacted]	URL prefix
<input type="checkbox"/>	https://wino.wine.tokyo/	URL prefix

確認

先程、Google Search Console で設定した URL を選択します。

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

ウェブストリームが表示されますので、選択をクリックしましょう。

× Search Console とのリンクを作成する



リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。 [詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

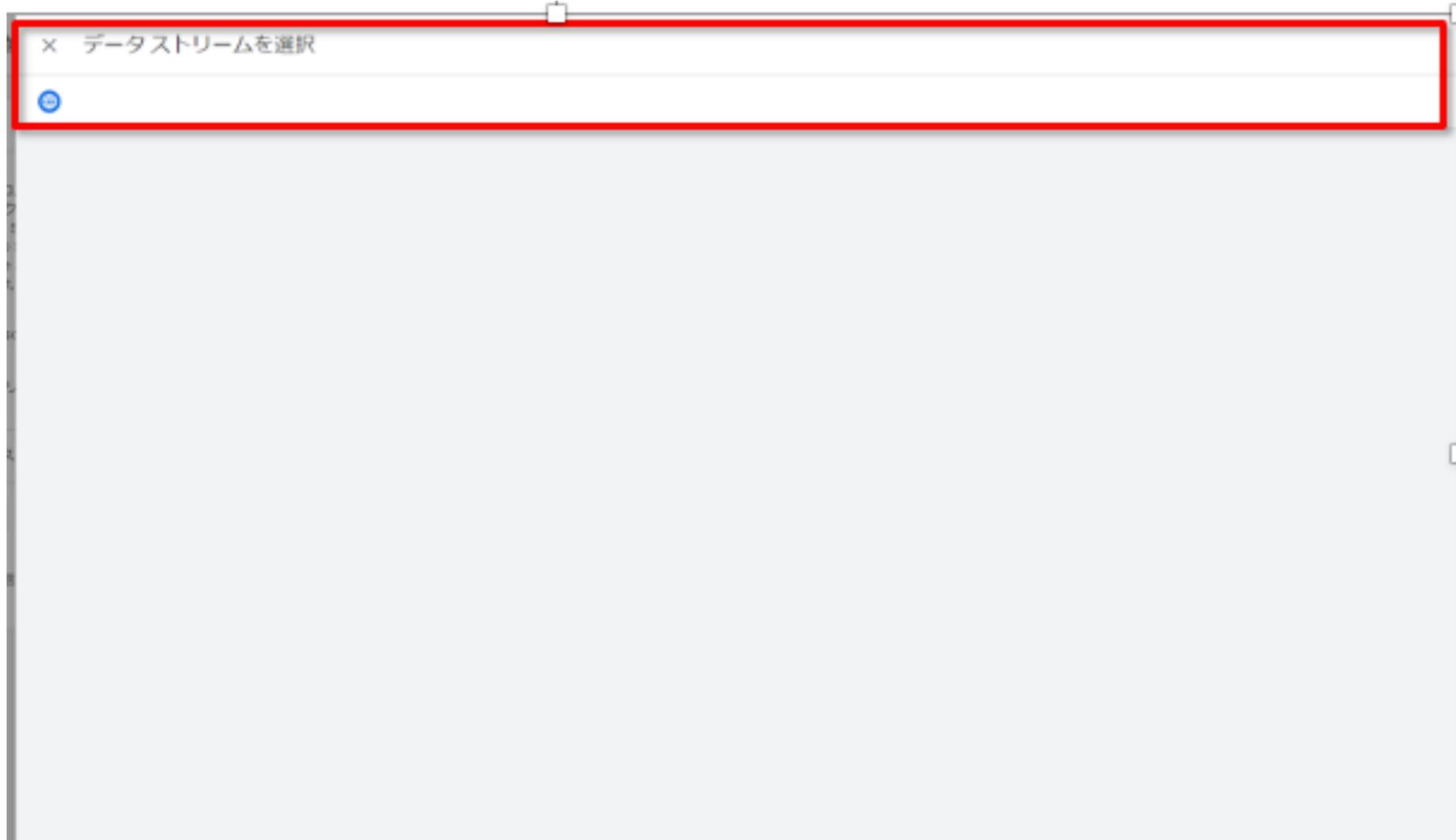
- Search Console プロパティを選択
- ウェブストリームを選択する
- 確認して送信

ウェブストリーム 選択

前へ 次へ

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

データストリームを選択し次の画面に進み、次へを選択しましょう。



# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次へを選択し、次の画面で送信をクリックしましょう。  
次の画面で「リンク作成済み」となればOKです。

× Search Console とのリンクを作成する

### リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。 [詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

- Search Console プロパティを選択
- ウェブストリームを選択する
- 確認して送信

ウェブストリーム

前へ **次へ**

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

設定が完了した後に、下記の手順でリンクしていることを確認できます。

管理 > プロパティ > Search Console リンク

The screenshot shows the Google Analytics 'Search Console Link' management page. The interface is in Japanese. On the left, there is a navigation menu with options like 'プロパティ' (Property), 'データストリーム' (Data Stream), and 'Search Console リンク' (Search Console Link). The main content area is titled 'Search Console リンク' and contains a search bar and a table. The table has columns for 'Search Console プロパティ名' (Search Console Property Name), 'Search Console プロパティタイプ' (Search Console Property Type), 'ウェブストリーム' (Web Stream), 'ストリームID' (Stream ID), 'リンクしたユーザー' (Linked User), and 'リンク日' (Link Date). A red box highlights the 'Search Console リンク' section.

Search Console プロパティ名	Search Console プロパティタイプ	ウェブストリーム	ストリームID	リンクしたユーザー	リンク日

# 最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

これで設定は完了です。

**GA4**のレポート画面からサーチコンソールが収集した検索キーワードデータを見ることができるようになります。

ライフサイクル>集客>集客サマリーで「**Google**のオーガニック検索クエリ」をクリックすると、検索キーワードの詳細なレポートを見ることができます。

# 最初にしておくべき設定(3)

## 内部トラフィックの除外

この設定は、社内アクセスのトラフィックを除外した上で分析したい場合のみ設定を推奨します。

ユーザーのトラフィックをより正確に把握することができます。

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックを除外するには、内部トラフィックに相当する IP アドレス（または IP アドレスの範囲）を定義したルールを作成する必要があります。

管理 > プロパティ列 > データストリーム

The screenshot shows the 'Analytics' management interface. At the top, there's a search bar with the text '「目標到達プロセスの作成方法」と検索してみてください'. Below the search bar, the 'Management' tab is selected, showing a sidebar with 'Accounts' and 'Properties' sections. The 'Accounts' section has a '+ アカウントを作成' button and a list of items: 'アカウント設定', 'アカウントのアクセス管理', 'すべてのフィルタ', 'アカウント変更履歴', and 'ゴミ箱'. The 'Properties' section has a '+ プロパティを作成' button and a list of items: '設定アシスタント', 'プロパティ設定', 'プロパティのアクセス管理', 'データストリーム' (highlighted with a red box), 'データ検定', 'データインポート', and 'レポート生成ツール'.

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックを定義するウェブデータ ストリームを選択します  
(この機能はアプリデータ ストリームには対応していません)。



The screenshot shows the Google Analytics 'Data Streams' page for a website. The left sidebar contains navigation options: 'プロパティ' (Property) with a '+ プロパティを作成' (Create Property) button, '設定アシスタント' (Setup Assistant), 'プロパティ設定' (Property Settings), 'プロパティのアクセス管理' (Access Management for Property), and 'データストリーム' (Data Streams). The main content area is titled 'データストリーム' (Data Streams) and has tabs for 'すべて' (All), 'iOS', 'Android', and 'ウェブ' (Web). A 'ストリームを追加' (Add Stream) button is in the top right. A table lists data streams, with one highlighted by a red box:

プラットフォーム	ID	ステータス
ウェブ	133773	過去 48 時間にトラフィックデータを受信しています。

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

追加の設定 > タグ付けの詳細設定 をクリックします。

## × ウェブストリームの詳細

The screenshot displays the 'Web Stream Details' page. At the top, there is a table with columns for 'Stream ID', 'Stream Name', and 'Measurement'. Below this, there is a section for 'Measurement Configuration' with a toggle switch for 'Include Pageviews' and a list of metrics being measured: Pageviews, Scroll Depth, and Clicks. The 'Tagging Setup' section provides instructions on how to set up tags, with options for 'Add tags to new pages' and 'Use tags from existing pages'. Under 'Add tags to new pages', there are two options: 'Global Site Tag (gtag.js)' and 'Google Tag Manager'. The 'Additional Settings' section includes 'Link to existing site tag', 'Measurement Protocol API Secret', and 'Tagging Details' (highlighted with a red box). The 'Tagging Details' link is accompanied by the text 'Configure client-side tagging actions (cross-domain links, internal traffic, event changes, etc.)'.

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「内部トラフィックの定義」をクリックします。

× タグ付けの詳細設定

## イベントの設定

-  イベントの変更  
受信イベントとパラメータを変更する >
-  イベントの作成  
既存のイベントに基づいて新しいイベントを作成します >
-  ユニバーサル アナリティクス イベントの収集  
ウェブサイトでページ内イベント (GA カスタム イベント、イベントが引き起こされたタイミング、ユニバーサル アナリティクスからの例外呼び出し) が発生するたびにイベントが収集されます

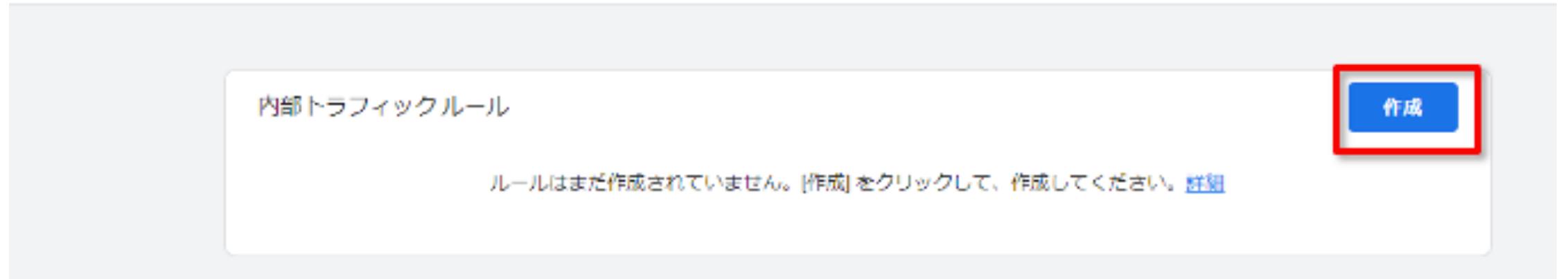
## タグの設定

-  ドメインの設定  
クロスドメイン測定に含めるドメインのリストを指定します >
-  内部トラフィックの定義  
内部として識別するトラフィックの IP アドレスを定義します >
-  除外する参照のリスト  
参照とは見なさないトラフィックのドメインを指定します >
-  セッションのタイムアウトを調整する  
セッションの最長時間を設定します >

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックルールの作成を選択します。

× 内部トラフィックの定義



次の画面で「マッチタイプ」を選択し、「値」を入力します。

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

通常はデフォルトの「internal」のままにしてください。

ルール名には、明確にどの場所を設定したのか分かるように記載しましょう。  
traffic\_type\_の値はデフォルトのまま「internal」のままです問題ありません。

通常は「IPアドレスが次と等しい」の選択肢を使うことがほとんどですが「CIDR表記」については、[公式ヘルプ](#)をご参照ください

× 内部トラフィックルールの作成 作成

内部として識別するトラフィックを定義します。一致する IP アドレスの外部からのトラフィックには、「traffic\_type」パラメータが選択した値とともに付加されます。データフィルタ機能を使用して、「Internal」と表示されるイベントデータをフィルタすることもできます（任意）。[注記](#)

設定

ルール名

traffic\_type の値

IP アドレス  [IP アドレスを確認](#)

マッチタイプ

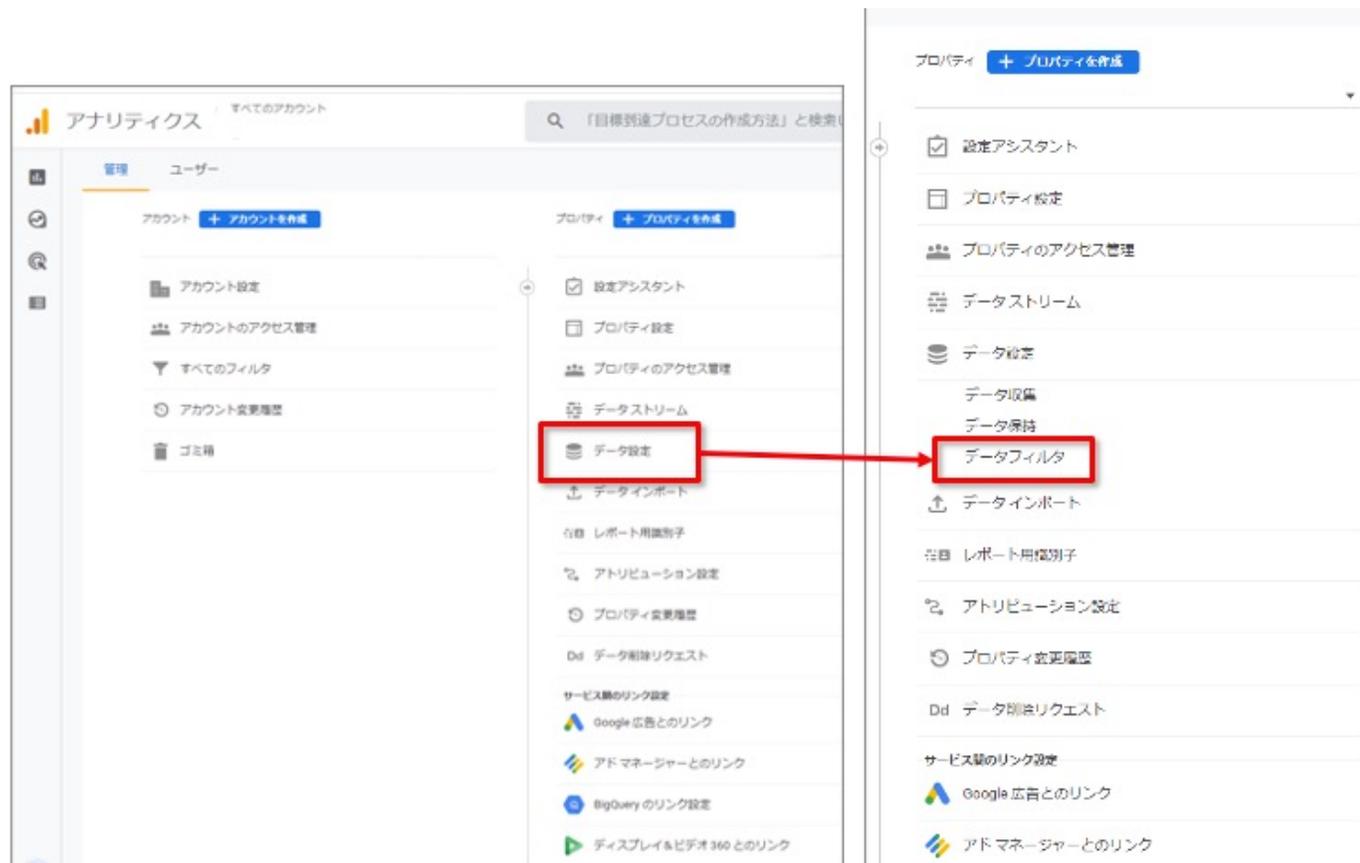
- IP アドレスが範囲内 (CIDR 表記)
- IP アドレスが次と等しい**
- IP アドレスが次から始まる
- IP アドレスが次で終わる
- IP アドレスに含む
- IP アドレスが範囲内 (CIDR 表記)

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

情報を入力したら「作成」をクリックしましょう。

「内部トラフィックルール」が設定されました。  
これで終了ではなく、次にフィルタ設定を有効にする必要があります。

データ設定 > データフィルタ



# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「Internal Traffic」をクリックします。

「フィルタの状態」を「テスト」から「有効」に変更して、「保存」をクリックしましょう。

× データフィルタの編集 保存

**フィルタの詳細**

データフィルタ名  
Internal Traffic

フィルタオペレーション②  
除外

次のパラメータ値を使用してイベントをフィルタ

パラメータ名	パラメータ値
traffic_type	Internal

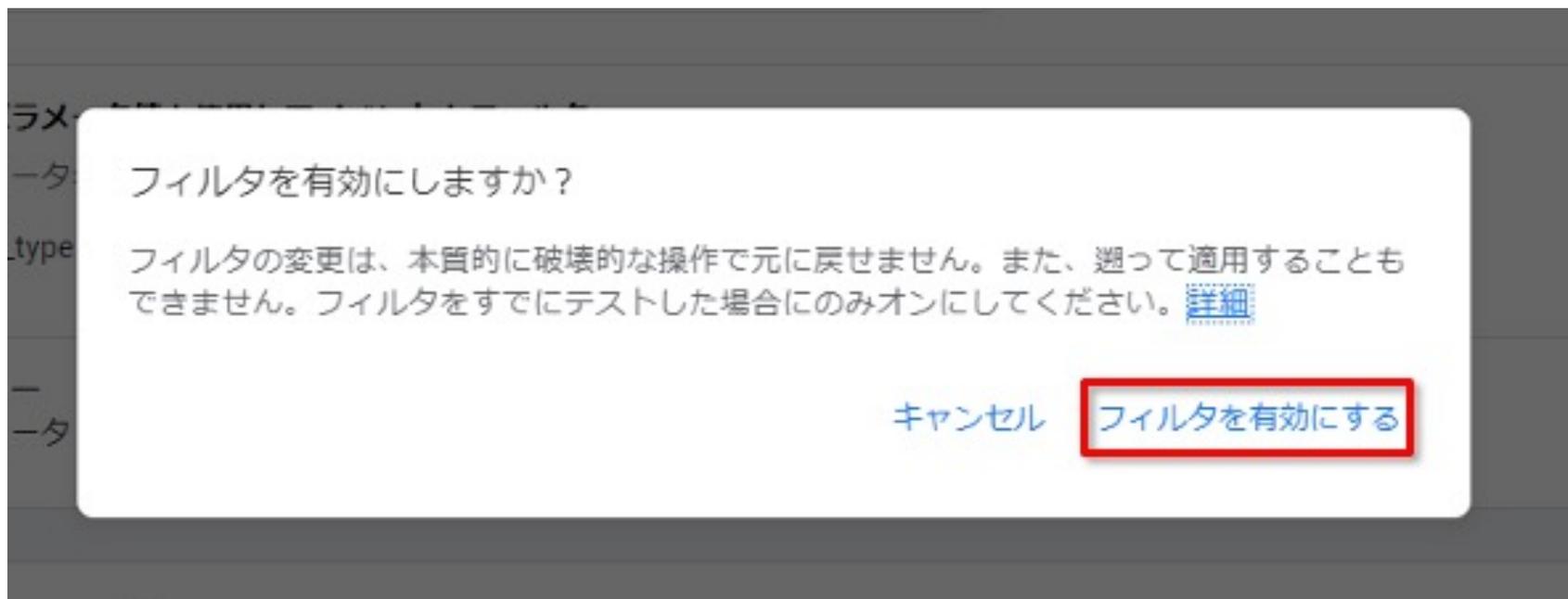
**リマリー**  
パラメータ traffic\_type の値が Internal に完全に一致する場合は、イベントを除外します。

**フィルタの状態**

- テスト**  
このフィルタは評価され、一致するデータのディメンションが「テスト データフィルタ名」になります。このディメンションはレポートで使用できます。
- 有効**  
このフィルタは評価され、一致するデータに適用されます。一致するデータは処理から除外されます。
- 無効**  
このフィルタは評価されません。

# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

フィルタを有効にしようとする時、下記のような確認画面が表示されます。



# 最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「テスト」から「有効」に変更になりました。

The image displays two screenshots of the Smartmedia Analytics interface, illustrating a change in the 'Data Filter' settings for 'Internal Traffic'.

**Top Screenshot:** The 'Data Filter' table shows the status for 'Internal Traffic' as 'テスト' (Test).

名前	フィルタの種類	オペレーション	現在の状態	フィルタを作成
Internal Traffic	内部トラフィック	除外	テスト	> ⋮

**Bottom Screenshot:** The 'Data Filter' table shows the status for 'Internal Traffic' as '有効' (Active).

名前	フィルタの種類	オペレーション	現在の状態	フィルタを作成
Internal Traffic	内部トラフィック	除外	有効	> ⋮

A red arrow points from the 'テスト' status in the top screenshot to the '有効' status in the bottom screenshot, indicating the change.

# 最初にしておくべき設定(4)

## Googleシグナル

異なるデバイスやブラウザからアクセスされた場合でも、同一ユーザーと認識して計測を行う機能です。

通常は異なったデバイスやブラウザからアクセスされた場合、異なるユーザーとして計測されます。

しかし「Googleシグナル」を使うことで、同一ユーザーとして計測することが可能です。

# 最初にしておくべき設定(4)

## Googleシグナル

ただし、同一ユーザーとして計測されるのは、

- ・ユーザーがGoogleのアカウントにログインした状態
- ・広告のカスタマイズを目的とした関連付けに同意している状態

この2つの条件に該当する状態でサイトを訪問した時に限りますので注意が必要です。

# 最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

管理 > プロパティ列 > データ設定 > データ収集 で

「Google シグナルのデータ収集を有効にする」の「利用を開始する」をクリック。



The screenshot shows the Google Analytics 'Data Collection' settings page. The left sidebar has 'データ収集' (Data Collection) highlighted with a red box. The main content area shows the 'Google シグナルのデータ収集を有効にする' (Enable Google Signals data collection) section. A blue button labeled '利用を開始する' (Start using) is highlighted with a red box. Below this, there is a detailed explanation of Google Signals and a 'Google の広告回線の接続に関するポリシー' (Google's advertising network connection policy) link. At the bottom, there are two expandable sections: '広告のカスタマイズを許可する詳細設定' (Advanced settings to allow advertising customization) and 'ユーザーデータ収集の確認' (Verify user data collection).

# 最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「続行」をクリックします。



アナリティクス すべてのアカウント

「Google 広告にリンク」と検索してみてください

## Google シグナルを有効にする

アナリティクスの機能が拡張され、Google データを使って、デバイスをまたいだユーザー行動をより的確に把握できるようになります。この新しい設定により、次のことが可能になります。

-  **新しいクロスデバイス機能**  
新しいクロスデバイス レポートやリマーケティングなどの機能が含まれます。
-  **その他のインサイト (Google データ使用)**  
Google のデータ (オーディエンスとユーザー属性に関する拡張レポートのデータなど) を使って、お客様のユーザーに関する詳しいインサイトを提供します。
-  **広告向けの既存の全機能**  
ユーザー属性とインタレスト カテゴリレポートやリマーケティングなど、既存の広告向け機能がすべて含まれます。

[Google シグナルの詳細をご確認ください。](#)

**続行**

# 最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「有効にする」をクリックしましょう。

アナリティクス 全てのアカウント

「Google 広告にリンク」と検索してみてください

## Google シグナルを有効にする ページ版

アナリティクスの機能が拡張され、Google のログインデータを使って、デバイスをまたいだユーザー行動をより的確に把握できるようになります。この新しい設定により、次のことが可能になります。

- 新しいクロスデバイス機能
- その他のインサイト (Google データ使用)
- 広告向けの既存の全機能

Google シグナルを有効にすると、Google アナリティクスでお客様のサイトやアプリから収集した訪問情報と、ログインユーザーのアカウントの Google 情報が関連付けられます (ただし、関連付けの対象となるのは、広告のカスタマイズを目的とした、こうした関連付けに同意しているユーザーのみです)。この Google 情報には、エンドユーザーの位置情報、検索履歴、YouTube の利用履歴、Google のパートナー サイトで収集されたデータなどが含まれる可能性があります。この Google 情報は、お客様のユーザーのクロスデバイス行動について、真実および匿名化されたインサイトを提供するために使われます。お客様はこの機能を有効にすることで、Google の広告向けの機能に関するポリシー (デリケートなカテゴリに関する規約など) を遵守すること、かかる関連付けについてご自身がエンドユーザーに対して必要なプライバシーの明示を行って、関連付けを行う権限をエンドユーザーから取得すること、エンドユーザーが「[マイアクティビティ](#)」を通じてかかるデータを閲覧、削除する可能性があることに同意するものとします。

注: Google アナリティクス 4 (GA4) プロパティのアプリストリームでは、Google シグナルをフルでご利用いただけます。現時点で GA4 プロパティのウェブストリームでは、ユーザー属性とインタレストカテゴリのレポート (広告識別子に基づく) のみご利用いただけます。ただし、他の機能も近日中に追加される予定です。

[有効にする] をクリックすると、このプロパティの Google シグナルのみが有効になります。

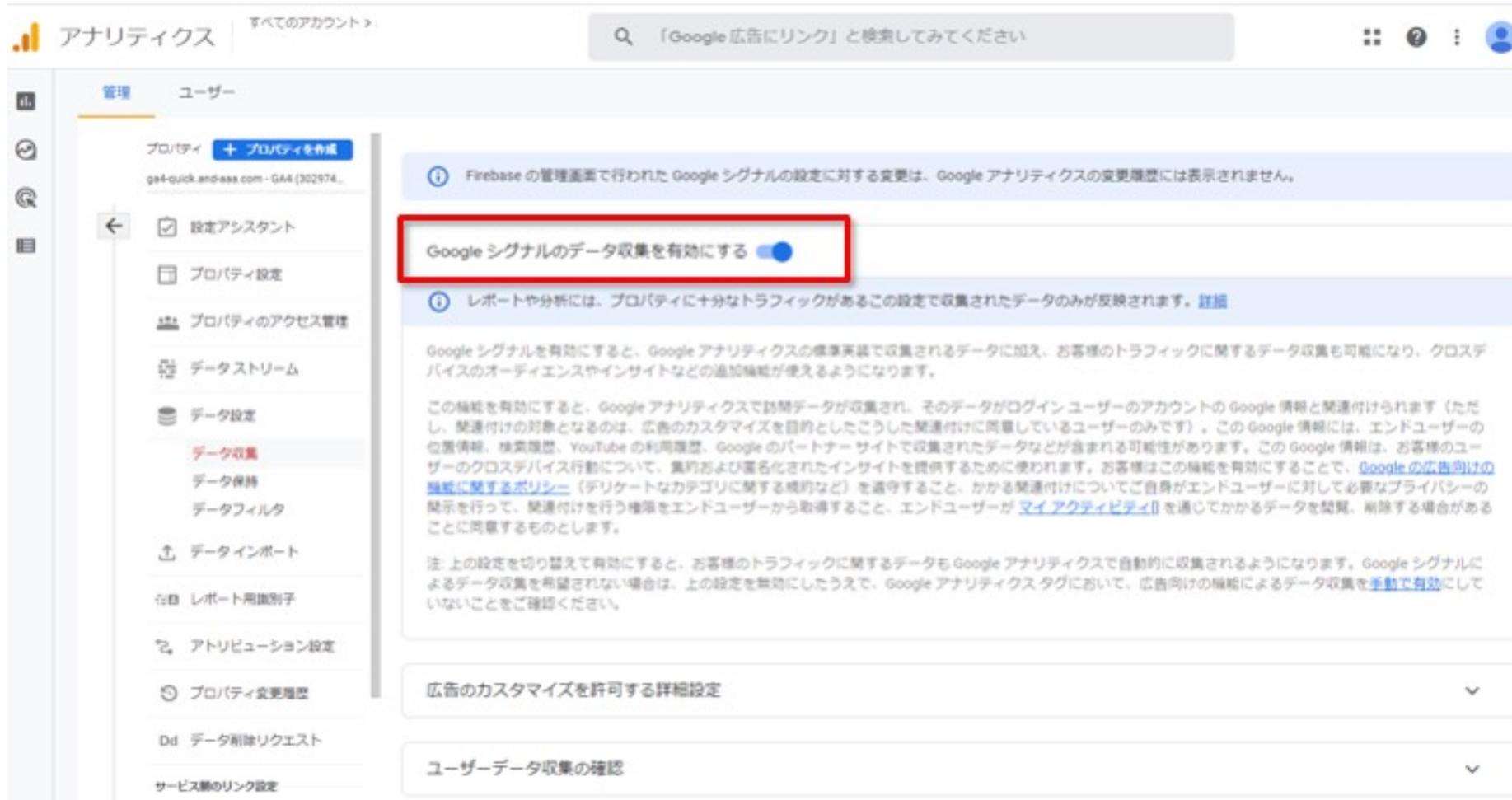
データ共有設定を確認する

お客様は、Google のプロダクトやサービスの改善に役立つデータ共有機能を有効にしています。このデータ共有設定は、Google ユーザー アカウントに関連付けられて Google シグナルによって収集された、認証済み訪問データにも適用されます。お客様は、こうしたデータを Google と共有することについて、ご自身のプライバシーポリシーで情報開示などを行って、エンドユーザーから必要な権限を取得することに同意するものとします。ユーザー属性とインタレストの拡張レポート機能は、Google とのデータ共有を有効にしている場合に限り利用できます。お客様のデータ共有設定については、[こちら](#)をクリックしてご確認ください。

**有効にする** 後で決める

# 最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「Google シグナル」のデータ収集が有効になりました。



The screenshot shows the Google Analytics 'Data Collection' settings page. The 'Google Signals' toggle switch is highlighted with a red box and is turned on. The page includes a sidebar with navigation options, a top search bar, and a main content area with informational text and expandable sections.

アナリティクス すべてのアカウント

「Google 広告にリンク」と検索してみてください

管理 ユーザー

プロパティ + プロパティを作成  
g94-quick-and-easy.com - GA4 (302974)

Google シグナルのデータ収集を有効にする

Firebase の管理画面で行われた Google シグナルの設定に対する変更は、Google アナリティクスの変更履歴には表示されません。

レポートや分析には、プロパティに十分なトラフィックがあるこの設定で収集されたデータのみが反映されます。詳細

Google シグナルを有効にすると、Google アナリティクスの標準英語で収集されるデータに加え、お客様のトラフィックに関するデータ収集も可能になり、クロスデバイスのオーディエンスやインサイトなどの追加機能が使えるようになります。

この機能を有効にすると、Google アナリティクスで訪問データが収集され、そのデータがログイン ユーザーのアカウントの Google 情報と関連付けられます（ただし、関連付けの対象となるのは、広告のカスタマイズを目的としたこうした関連付けに同意しているユーザーのみです）。この Google 情報には、エンドユーザーの位置情報、検索履歴、YouTube の利用履歴、Google のパートナー サイトで収集されたデータなどが含まれる可能性があります。この Google 情報は、お客様のユーザーのクロスデバイス行動について、集約および匿名化されたインサイトを提供するために使われます。お客様はこの機能を有効にすることで、[Google の広告向けの機能に関するポリシー](#)（デリケートなカテゴリに関する規約など）を遵守すること、かかる関連付けについてご自身がエンドユーザーに対して必要なプライバシーの開示を行って、関連付けを行う権限をエンドユーザーから取得すること、エンドユーザーが [マイアカウントビデュー](#) を通じてかかるデータを閲覧、削除する可能性があることに同意するものとします。

注 上の設定を切り替えて有効にすると、お客様のトラフィックに関するデータも Google アナリティクスで自動的に収集されるようになります。Google シグナルによるデータ収集を希望されない場合は、上の設定を無効にしたうえで、Google アナリティクス タグにおいて、広告向けの機能によるデータ収集を [手動で有効](#) していないことをご確認ください。

広告のカスタマイズを許可する詳細設定

ユーザーデータ収集の確認

# 最初にしておくべき設定(5)

## クロスドメイン設定

クロスドメイン測定を使用すると、  
**ドメインをまたいだユーザー行動**を、同一ユーザーによるものとして  
正確に識別できます。

# 最初にしておくべき設定(5)

## クロスドメイン設定

別ドメインへのリンクがクリックされると、通常は「測定機能の強化」によって「離脱クリック イベント」※注として処理されますが、リンク先ドメインがクロスドメイン測定の対象として登録されている場合はこの処理から除外されます。

※注：「離脱クリック イベント」 = ユーザーが現在のドメインから移動するリンクをクリックするたびに記録されます。

# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

GA4のクロスドメイン設定は、GA4の管理画面上で完結します。

「管理 > データ ストリーム > ウェブ」で該当の「データ ストリーム」を選択します。



# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「タグ付けの詳細設定」を選択しましょう。

× ウェブストリームの詳細

ストリームURL https://www.example.com	ストリーム名 example.com	更新日 2023/10/27 10:00
ストリームID 123456789	ステータス 過去 48 時間にトラフィックデータを受信しています。 <a href="#">詳細</a>	

**拡張計測機能** 🔴

ページビューの標準測定に加え、サイトのコンテンツとのインタラクションを自動的に測定します。リンクや埋め込み動画などのページ上の要素のデータは、関連するイベントとともに収集される場合があります。個人を特定できる情報が Google に送信されないように注意する必要があります。 [詳細](#)

測定中: 🔵 ページビュー数 🟢 スクロール数 🟢 離脱クリック 📄 他 3 個 ⚙️

**タグ設定手順**

次のいずれかの方法を使用して、データ収集を開始します。

[新しいページ上のタグを追加する](#) [既存のページ上のタグを使用する](#)

- 🔒 **グローバルサイトタグ (gtag.js)** ウェブサイト作成ツールや、CMS でホストされるサイトをご使用の場合、このタグを設定プロパティでデータの表示を開始するには、アナリティクスタグをウェブサイトに追加します。
- 🔗 **Google タグ マネージャー** ウェブインターフェースからタグを追加したり管理したりすることで、Google アナリティクスなど Google の各種ツールや Google 以外のツールにデータを送信します。

**追加の設定**

- ↔️ **接続済みのサイトタグ** このストリームのページ上のグローバル サイトタグを使用して、追加のプロパティまたはサービスのタグを読み込みます。 [詳細](#) 0 個を接続済み >
- 🔑 **Measurement Protocol API Secret** [ヘルプ](#) API Secret を作成すれば、Measurement Protocol でこのストリームに送信する追加のイベントを有効にできます。 [詳細](#) >
- タグ付けの詳細設定** [ヘルプ](#) クライアントサイドのタグ付けの動作（クロスドメインリンク、内部トラフィック、イベントの変更など）を設定します >

# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「ドメインの設定」をクリックします。

× タグ付けの詳細設定

イベントの設定

- 🔗 イベントの変更  
受信イベントとパラメータを変更する >
- 🔗 イベントの作成  
既存のイベントに基づいて新しいイベントを作成します >
- 📊 ユニバーサルアナリティクス イベントの収集  
ウェブサイトでページ内イベント (GA カスタム イベント、イベントが引き起こされたタイミング、ユニバーサルアナリティクスからの例外呼び出し) が発生するたびにイベントが収集されます

タグの設定

- 👉 **ドメインの設定**  
クロスドメイン測定に含めるドメインのリストを指定します >
- 📄 内部トラフィックの定義  
内部として識別するトラフィックの IP アドレスを定義します >
- 🗑️ 除外する参照のリスト  
参照とは見なさないトラフィックのドメインを指定します >
- 🕒 セッションのタイムアウトを調整する  
セッションの最長時間を設定します >

# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「条件を追加」をクリックします。

× ドメインの設定

⚠️ ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。 [詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン測定を有効にできます。さらに、拡張測定機能を使用している場合は、離脱クリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを監視します。 [詳細](#)

設定

次の条件に一致するドメインを含める

**条件を追加**

# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

入力欄に、トラッキングするドメインを入力しましょう。

× ドメインの設定

⚠️ ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。 [詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン測定を有効にできます。さらに、拡張計測機能を使用している場合は、離脱クリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを定義します。 [詳細](#)

設定

次の条件に一致するドメインを含める

マッチタイプ	ドメイン
先頭が一致	example.com

[条件を追加](#)

# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

右上の「保存」をクリックします。



# 最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

設定が終わった状態です。

× ドメインの設定 保存

⚠️ ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。 [詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン追跡を有効にできます。さらに、タグ計測機能を有効している場合は、ページクリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを定義します。 [詳細](#)

設定	ドメイン
次の条件に一致するドメインを定める	
マッチタイプ	
先頭が一致	

# 最初にしておくべき設定(6)

## 参照元除外設定

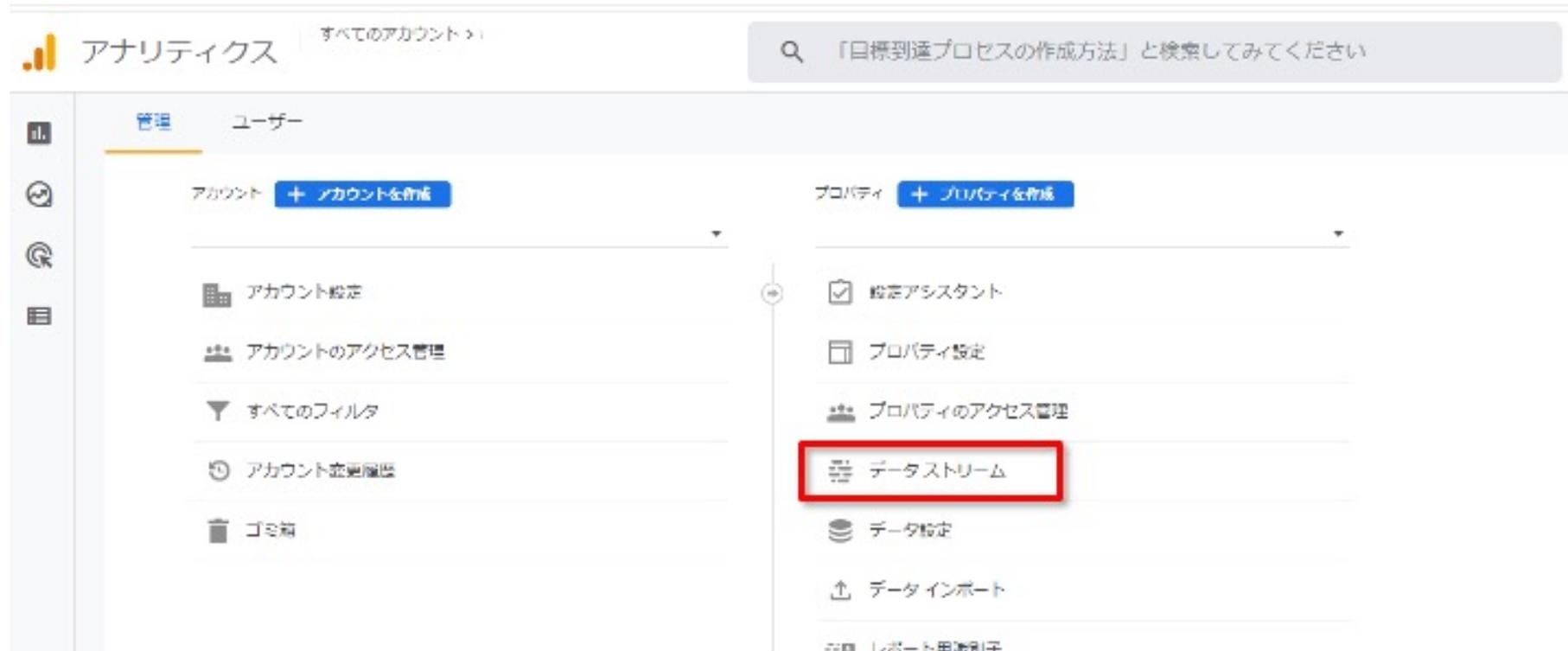
Clipkit For ECをはじめ、途中で決済サービスを挟むような場合、設定しておくことを推奨します。

GA4はセッションの途中で参照元が変わった場合、セッションの参照元は変わりません。

しかし、イベントの参照元は変わりますので、参照元除外設定により、参照元を引き継げるようにしましょう。

# 最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

管理 > プロパティ列 > データストリーム > ウェブ



# 最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

追加の設定 > 「タグ付けの詳細設定」 をクリックします。

× ウェブストリームの詳細

ストリームURL	ストリーム名	測定ID

ストリームID      ステータス  
過去 48 時間にトラフィックデータを受信しています。 [詳細](#)

**拡張計測機能**

ページビューの標準測定に加え、サイトのコンテンツとのインタラクションを自動的に測定します。リンクや埋め込み動画などのページ上の要素のデータは、関連するイベントとともに収集される場合があります。個人を特定できる情報が Google に送信されないようには注意する必要があります。 [詳細](#)

測定中: ページビュー数 スクロール数 クリック数 他 3 個

**タグ設定手順**  
次のいずれかの方法を使用して、データ収集を開始します。

[新しいページ上のタグを追加する](#)      [既存のページ上のタグを使用する](#)

- グローバルサイトタグ (gtag.js)    ウェブサイト作成ツールや、CMS でホストされるサイトをご使用の場合、このタグを設定プロパティでデータの表示を開始するには、アナリティクスタグをウェブサイトに追加します。
- Google タグ マネージャー    ウェブインターフェースからタグを追加したり管理したりすることで、Google アナリティクスなど Google の各種ツールや Google 以外のツールにデータを送信します。

**追加の設定**

- 接続済みのサイトタグ    このストリームのページ上のグローバルサイトタグを使用して、追加のプロパティまたはサービスのタグを読み込みます。 [詳細](#)      1 個を接続済み >
- Measurement Protocol API Secret [ページ](#)    API Secret を作成すれば、Measurement Protocol でこのストリームに送信する追加のイベントを有効にできます。 [詳細](#) >
- タグ付けの詳細設定**    クライアントサイドのタグ付けの動作 (クロスドメイン リンク、内部トラフィック、イベントの変更など) を設定します >

# 最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

「除外する参照のリスト」をクリックします。

× タグ付けの詳細設定

イベントの設定

- 🔗 イベントの変更  
受信イベントとパラメータを変更する >
- 🔗 イベントの作成  
既存のイベントに基づいて新しいイベントを作成します >
- 📊 ユニバーサル アナリティクス イベントの収集  
ウェブサイトでページ内イベント (GA カスタム イベント、イベントが引き起こされたタイミング、ユニバーサル アナリティクスからの例外呼び出し) が発生するたびにイベントが収集されます

タグの設定

- 🌐 ドメインの設定  
クロスドメイン測定に含めるドメインのリストを指定します >
- 📄 内部トラフィックの定義  
内部として識別するトラフィックの IP アドレスを定義します >
- 🚫 除外する参照のリスト  
参照とは見なさないトラフィックのドメインを指定します >
- 🕒 セッションのタイムアウトを調整する  
セッションの最長時間を設定します >

# 最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

除外するドメインを入力して「保存」をクリックします。

× 除外する参照のリスト 保存

パラメータ「ignore\_referrer」を以下の条件に該当するトラフィックに追加します。 [詳細](#)

設定

トラフィックソースとしての次のいずれかの条件に一致する参照を無視

マッチタイプ ドメイン

参照ドメインが次を含む ⊖

条件を追加

マッチタイプ

- 参照ドメインが次を含む
- 参照ドメインが次で始まる
- 参照ドメインが次で終わる
- 参照ドメインが次と完全に一致
- 参照ドメインが次の正規表現に一致

以上で、除外するドメインが設定できます。

# 最後に

以上でGA4の導入と並行して設定すべき項目の紹介は終了です。  
より上手にGA4を使いこなすために、ぜひ設定してみましょう。

上記の手順は、お客様の方でより簡単に設定できるようヘルプとして公開していますが、有償対応にてサポートセンターで設定代行の対応をすることも可能です。

必要のある方は、お問い合わせくださいませ。

[support-clipkit@sma-media.com](mailto:support-clipkit@sma-media.com)